YAMATO Leaf Archive

2024年9月

葉画家・群馬直美の「葉っぱアーカイブ」Vol.33

《葉画家・群馬直美がこれまでに描いた絵とエッセイをお楽しみください》

絵と文 群馬直美

72億8千万分の1人の私《ムラサキシキブ》

7月半ば。うだる暑さの中、ヤマトビオトープ園にやって来た。
「うわぁ、かわいい！」
ムラサキシキブの枝に薄紫色の小花が群がって咲いている。
月一ビオトープ園散歩を開始して以来、初めて見たムラサキシキブの花。
思えば2016年の正月3日、入院中の父を見舞いがてらやって来たのが、ビオトープ散歩のはじまりだった。
枯れ葉を落とさない枝に、O.ヘンリーの短編小説『最後の一葉』が心を過り、
「ビオトープ園の葉っぱたちからの父へのエール！」と描いたのが、
ソシンロウバイの花芽と枯れ葉付きの一枝だった。
あれから8年。私は相も変わらずビオトープ園にやって来て、
ムラサキシキブの小花に目を丸くしている。
「見て描くことは、生きること」は、8年前の私がムラサキシキブの実に寄せたエッセイのタイトル。
《見て描いていると、生きている感じがする。
私ひとりが生きている、というのではなく、この世の中の大勢の人たちと共に生きている感じ。
目の前のムラサキシキブの葉っぱ一枚一枚、実一粒一粒を私の目を通して、
みんなで一緒に見ている感じがするのだ。
今、この倉庫アトリエで絵筆を走らせていると、
ムラサキシキブの一枝を固唾をのんで見つめる72億8千万人の息づかいを感じる。
何故なら、何気ない葉っぱたちの命のキラメキを描きとどめ、
それをみんなに届けるのが私の仕事だから。誰に頼まれた訳ではない。
私が勝手にひとりで命の炎を燃やしているだけ。
使命感にかられてやっているだけ。
でもこれが、72億8千万分の1人の私にできること。
この世でただひとりの私がやれる、小さいけれど大きな仕事……》
ムラサキシキブの花を見て、8年前の自分にタイムスリップ。

〈ヤマトビオトープ園の葉っぱたちvol.9の絵とエッセイより抜粋加筆〉

《表紙の絵》ムラサキシキブ

「紫色のおいしそうな仁丹。」

・ヤマトビオトープ園にて2016年9月6日採集
（作品の完成日は 2016年9月28日）
・紙（ファブリアーノ極細）/テンペラ
・size:340mm×245mm　　©Naomi Gumma

群馬直美 GUMMA NAOMI プロフィール

高崎市生まれ。1982年、東京造形大学絵画科卒業。在学中に新緑の美しさ、その生命力に深く癒された経験から、“葉っぱ”をテーマとする創作活動に入る。「葉っぱの精神ーこの世の中の一つ一つのものは全て同じ価値があり光り輝く存在である」に則り、1991年テンペラで克明に描く現在の作風に至る。著書に『言の葉　葉っぱ暦』『群馬直美の木の葉と木の実の美術館』『葉っぱ描命』他。東京都立川市在住。　https://www.wood.jp/konoha/

建設プロダクト ヤマト

発行 株式会社ヤマト 総務部広報室 《2024年9月発行》
〒371-0844 群馬県前橋市古市町118　TEL:027-290-1800(代)　FAX:027-290-1896　ヤマトホームページ www.yamato-se.co.jp